

2020-21 冬季 熱発されている方の診療について

2020-21年の冬季、当院では

- ・現在37.5℃以上の熱がある
- ・37度以上の熱が数日持続する
- ・咳や痰が悪化傾向にある
- ・上記を満たさない感冒症状でも、都内に通勤通学していて他者との社会的な距離が保てていない

方の受診については、まず近隣の熱発者外来をご案内しております
熱の他に耳・鼻・のどの症状がある場合、まず案内先で新型コロナウイルス感染症でないことが
確認(PCR 検査陰性)されてから、その旨ご連絡いただいたの受診をお願い致します

また、鼻・のどのネブライザー処置・上咽頭塩化亜鉛処置(Bスポット療法) は実施を
保留しております

皆様方も充分ご存知のことと存じますが、2020年12月以降、新型コロナウイルス流行の第3波により、流山市周囲でもかなり多人数の方が罹患しております。逆に「3密回避」「マスク手洗いの徹底」により、例年流行するインフルエンザ・感冒ウイルス・細菌性の上気道炎はほとんど発生しておりません。この状況では、熱発した方は、まず「コロナウイルスではないか？」という懸念のもとに拝見する必要があり、クラスター発生回避のため熱発以外の症状の方と空間的・時間的に厳密に隔離して診療することが求められています。全国の医療機関全体の体制として、

1. 新型コロナウイルス疑いの熱発者を診療する(熱発者外来を行う)か、しないかを明確にする
2. 熱発者外来を行う施設では、する場所と時間帯を、他の診療と厳密に隔離して行う
3. 熱発者外来を行わない施設(一般的に専門分野の診療科)では、熱発された方を上記の熱発者外来へ案内し、自院の非熱発の専門診療と混在させない(クラスター発生回避のため)
4. 熱発者外来を行わない施設では、自院の専門分野の診療内容(質・受診者数)の維持に専念し、行う施設の「熱発者外来以外の診療負担」を軽減する(医療崩壊の回避)

に意思統一しております。当院ではクリニックの間取り・混雑状況・専門性の観点から2020-21の冬季については、上記の「3・4」の立場を取らせて頂くことになりました。

この社会状況に際し、上記方針に御理解、御協力をお願い申し上げます。

2020年12月

桜耳鼻咽喉科めまいクリニック 院長 高峰 敦